６月１９日（木）13：30～14：30

会場：　カンガルーム

**こどもの**

*“食べる”***を育てよう！**



**講演　：　「子どものお口と健康を考える」**

　　　　　　　　講師　食育サポーター

　　　　　　　　　　 小島歯科医院　院長

　　　　　　　　　　　　　小島　登先生 http://www.kojimashika.net/

**Ⅰ　虫歯予防の話**

　　１．虫歯菌

　　２．唾液

　　３．アメと飲み物

　　４．フッ素の利用

**Ⅱ　乳幼児期の食事とお口の働きについて**

　　１．幼児期、学童期に見られる問題点と改善策

　　　　　①や舌、口唇、などの形態の異常

　　　　　②噛めない、飲み込めないなどの機能の障害

　　　　　③指導、訓練や治療

２．自立の過程

　　　　　　離乳食から幼児食、普通食へ

　　　　　　咀しゃくの発達は舌の動きの発達が基本

前後運動　→　上下運動　→　左右の動き

**発達する口腔領域の機能獲得期**

1. 口腔摂取準備期

　　　　　　　　　　　　は口腔外にあり、口唇は半開きのまま。閉じることができない

1. 機能獲得期

５～６ヶ月頃

　　　　　　　　　　　　舌抵反射が消失、舌の前後運動

1. 捕食機能獲得期

下唇がスイッチ、

上唇が１回量を判断する。

　　　　　　　　　　　　口唇閉鎖、上唇が下りてくるのを待つ

７～８ヶ月頃

1. 押しつぶし機能獲得期

この時期に「噛んでいる」と勘違いして、舌でつぶせない固すぎる食物を与えてしまい、将来問題が起こることが多い。

　　　　　　　　　　　　舌の上下運動

９～11ヶ月頃

1. すりつぶし機能獲得期

　　　　　　　　　　　　舌の左右運動

12～18ヶ月頃

1. 自食準備期

　　　　　　　　　　　　吐き出す機能

10ヶ月頃

1. 手づかみ食べ機能獲得期

　　　　　　　　　　　　自分の１口量を覚える

　　　　　　　　　　　　（食べにくい食品は・・・繊維性が強いもの、薄い葉もの）

1. 食具食べ機能獲得期

　　　　　　　　　　　　スプーン、フォーク、箸

**自立過程において機能の発揮の仕方を学ぶ幼児期前半・咀しゃくの持続力を養う時期**

３．その他

　　　　　　①好き嫌い

　　　　　　②１歳６ヶ月の歯科健診の意義

**Ⅲ　食品による窒息事故**